

4 厨房設備の管理

管理の目的

厨房内の衛生状態の保持、食中毒の予防及び衛生害虫の発生予防

厨房内では水や油を常時使用するため、施設内の他の場所に比べて清掃方法や衛生管理がより重要であるといえます。特に居住型の社会福祉施設では1日3食を調理しますので、厨房を使用する時間が他の施設よりも長くなります。厨房での食品残渣などの汚れは、細菌やねずみ衛生害虫等にとっても重要な栄養源となり、食品中の細菌の繁殖やハエなどの衛生害虫の侵入による汚染（異物混入）の原因ともなりかねません。また、他の部屋と違い、食材などを常時保管しているため、食材の保管状況によっては衛生害虫の発生も起こりやすくなります。そのため、厨房をもつ施設では、食品類の衛生的な取り扱いはもちろんですが、食品残渣等の処理、排水設備（グリース阻集器）、排気設備（グリースフィルタ）の管理を適切に行う必要があります。



グリース阻集器（3槽式の例）



グリースフィルタ（換気扇）

設備の維持管理手法～厨房設備～

排水設備であるグリース阻集器（グリーストラップ）が汚れている場合、処理しきれない油類はすべて下水道や排水槽、浄化槽に流れ込んでしまいます。油を流し続けると、排水管が詰まって閉塞したり、浄化槽や下水処理施設での水質浄化に支障をきたしたりすることがあります。また、排水槽等が汚れる原因としてグリース阻集器の管理が不適切である場合が非常に多く、排水槽や浄化槽の管理が不適切である場合と同様に、硫化水素などの悪臭や衛生害虫の発生源となります。

換気設備であるグリースフィルタ（換気扇についているフィルタ）は、油等で汚れていると換気能力が落ち、厨房内の空気環境が悪くなります。また、油の付着がひどい場合には火災の危険も生じます。

< 管理項目 >

- 1 グリース阻集器の清掃・点検
- 2 グリースフィルタ（換気扇）の清掃・点検
- 3 食料品の保管状況の点検

< 必要な帳簿書類 >

- ・グリース阻集器、グリースフィルタの清掃記録
（グリース阻集器清掃点検記録票/p. 1 1 3 参照）
- ・厨房内の清掃記録

1 グリース阻集器の清掃・点検

グリース阻集器については、43ページの「グリーストラップの適正管理」に従い、定期的に清掃し、記録を保存するようにします。1槽目の受かごのゴミ、2・3槽目に浮いた油分（グリース）は毎日すくい取り、油分以外に沈殿した沈殿物についても注意し、週に1回以上はすくい上げて処理しましょう。日頃から厨房のみなさんの目に入るような壁等に貼りつけて使用するとよいでしょう。

なお、グリース阻集器を設置する際には、「有効な位置に阻集器を設ける」「有効な機能を有し器内の清掃等が容易に行なえる構造の物を設置する（3槽以上が望ましい）」のが原則です。しかし、室外にあるもの、深くて容易に手が届かないもの、冷蔵庫や調理台の下にあるものなどは、管理担当部門が不明確になりやすく、まったく管理されていないこともありますので、詰まりや衛生害虫の発生には特に注意しましょう。



管理が不十分なグリース阻集器
右側から流入する。1 槽目のカゴには残飯が、
2、3 槽目には油がたまっている



グリース阻集器の上に調理台が置かれた例
掃除が行いにくい

2 グリースフィルタの清掃・点検

目視により、油やほこりなどが付着した汚れ具合を確認します。定期的に清掃や交換を行い、汚れがひどい場合は、清掃頻度をあげることも必要です。なお、水を通過させるタイプのものは、設置業者でないと取り扱いができないことがありますので注意が必要です。内部の点検ができない場合は、清掃の頻度や日常の管理方法についてチェックをしましょう。

3 食料品の保管状況の点検

開封された乾物類は害虫等を誘引しますので、必ず密閉容器で保管します。粉類や米袋の破れによる散乱にも注意します。すのこがある場合は、その下の床の部分も確認できる範囲でライトを当て、異常がないか確認しましょう。



食料品保管庫

1 受カゴ内と浮いた油は毎日

1 槽目の受カゴは野菜クズなどのゴミを取るためのものです。他の用途には使用しないでください。



少なくとも1日1回は取り外して清掃してください。



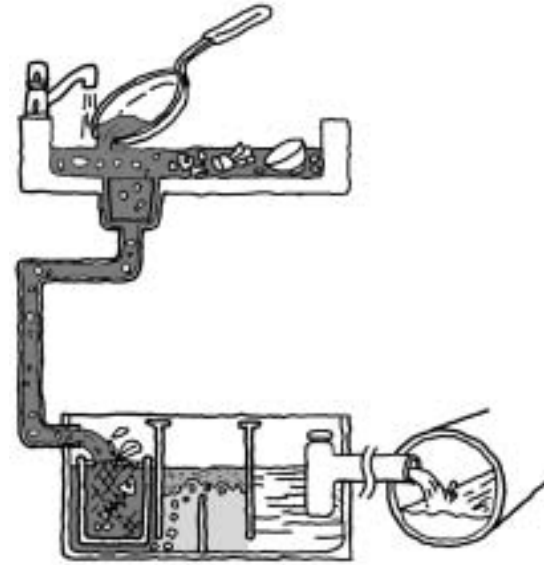
また、排水中の油分(グリース)は、2 槽目以降に浮いてたまるので、毎日すくい上げて処理してください。

2 沈殿物の清掃は週に1回以上

底にたまった沈殿物は週に1回はすくい上げて処理してください。



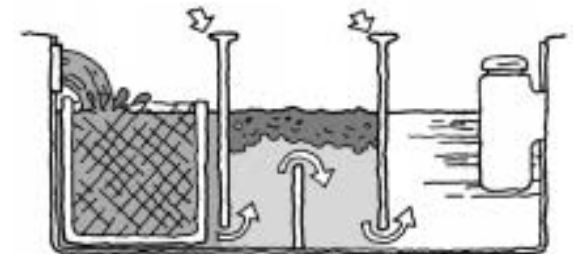
グリーストラップの適正管理



調理場からの排水には多量の油分が含まれていて、そのまま流すと排水管が詰まることがあります。グリーストラップを適正に機能させて排水中の油分を上手に取り除いてください。

3 スライド板は正しく差し込む

スライド板は把手がついている部分を上にして確実に差し込んでください。正しく差し込まなかったり、通常の使用時に外していると、グリースが効率良く取れないことがあります。



4 キャップを外さない

トラップ管に付いているキャップは臭気止めなので、清掃時以外は取り外さないでください。



5 トラップ管に注意

トラップ管に強い衝撃を与えると破損することがあるので注意してください。

